



札幌医科大学附属病院長
渡辺 敦

昭和60年3月

札幌医科大学卒業

平成25年 教授就任

令和 6年 病院長就任

病院長再就任にあたっての思いは

再び本院の舵取りを担うこととなり、その職責の重さに身が引き締まる思いです。これまでの任期中は、地域の皆様や職員に支えられながら、医療の質向上と病院改革に邁進してまいりました。このたびの再就任にあたり、これまでの成果をさらに発展させ、皆様からのご期待に確かな医療でお応えしていく決意を新たにしております。次なる任期も、情熱と誠実さをもって、病院経営と地域医療の発展に全力を尽くす所存です。

これからの札幌医科大学附属病院が目指す姿は

本院は今後も地域医療の最後の砦として、安全で高度な医療を提供し続けます。特に、個々の患者さんに最適な治療を行う「がんゲノム医療」の推進や、デジタル技術を活用した「遠隔診療（リモートICU等）」の体制強化に注力してまいります。併せて地域の医療機関との一層の連携深耕を図り、広大な北海道のどこにいても、患者さんやご家族が安心して質の高い医療を受けられる、信頼と温もりのある病院づくりを全職員で目指します。



新任部長の紹介



経営戦略部長
千葉 弘文
(R8.4.1～)



放射線部長
染谷 正則
(R8.4.1～)



手術部長
寺本 篤史
(R8.4.1～)



臨床工学部長
宮島 正博
(R8.4.1～)



医療情報部長
高野 賢一
(R8.4.1～)

新任教授の紹介



病理学講座
病理学第一分野
廣橋 良彦
(R8.4.1～)



外科学講座
心臓血管外科学分野
伊庭 裕
(R8.5.1～)

札幌医科大学公式Youtube
チャンネルにて、診療科ごとの
紹介動画を公開中！
ぜひご覧ください！



24時間365日、命を支える当院のハートチーム

—安心して受けられる最新の心臓弁治療—

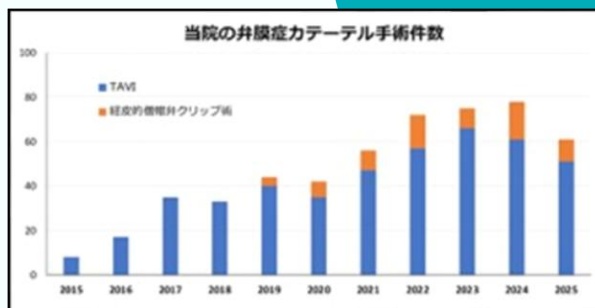


内科学講座
循環病態内科学分野
助教 村上 直人

息切れや胸の痛み、ふらつきなどの症状は、心臓弁膜症のサインかもしれません。当院では、2015年よりカテーテルを用いた低侵襲治療「TAVI（タビ）」を開始し、これまでに450例を超える治療実績を積み重ねてきました。2019年からは僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術を70例以上実施しており、先進的な治療に積極的に取り組んでいます。

当院は、道内唯一の高度救命救急センターを併設しており、24時間365日体制で患者さんを受け入れています。循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、救急科など多職種からなるハートチームが連携し、お一人おひとりに最適な医療を提供しています。また、手技時間や入院期間の短縮にも積極的に取り組むとともに、術中の脳梗塞リスク低減を目的とした脳保護デバイスなど、最新の治療技術も積極的に導入しています。命を支えるハートチームとして、これからも安全で質の高い治療の提供に努めてまいります。

坂道や階段で息切れを感じることはありませんか？「年のせいかな」と思う症状の中に、治療できる病気が隠れていることがあります。気になる症状やご不安がありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。



大学病院の強みを活かした、安心・安全な周産期診療



産婦人科学講座
産科周産期科学分野
講師 染谷 真行

札幌医科大学附属病院の産科周産期科は、いわゆるローリスクから母体・胎児にリスクを抱えたハイリスクの妊婦さんまで、幅広く診療を行っています。その中のいくつかを紹介します。

① 分娩時鎮痛(無痛分娩)

東京都が無痛分娩に補助を出すことが話題となりましたが、札幌・北海道においても分娩時鎮痛を望む妊婦さんは増加傾向です。当院でも2023年より希望者への分娩時鎮痛を提供し、年間100人を超える妊婦さんを管理しています。当院の特徴は、何と言っても『挿入から薬液管理を原則麻酔科医が管理する』ことです。また、速やかな効果発現が期待できる脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔も積極的に行っています。効果不十分な場合への対応や安全性の面からも麻酔科医の関与は欠かせません。

② 産科救急のシミュレーショントレーニング

分娩時の急変は、どれだけローリスクと思っていても予測が困難です。そのため、我々は多くの医療スタッフがJ-CIMELSなどの急変講習会を受講・開催したり、手術室や救命救急センターと協力してシミュレーションを行い、日々知識と技術の研鑽に努めています。

また、当院は分娩数の制限を行っておりません。安全と快適を高いレベルで両立している当院産科周産期科での管理を希望する妊婦さんは、かかりつけの施設を通じてご連絡下さい。

